



みんなで防ごう土砂災害

「土砂災害防止月間」

6月1日～6月30日

「土砂災害防止に大切なこと」

令和六年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」 作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）
鹿児島県 鹿児島市立谷山北中学校 一年 安荘 心乃璃（あんしょうみのり）

ある日、土砂災害を題材にしているニュースを見た。そのニュースには、泣き崩れている人や、抱き合っている人の姿が写しだされていた。見ていると、とても悲しく苦しい気持ちになった。二度とこんなことが起きてほしくないと思い、私たちにできることは何か、鹿児島県が行っている防止対策は何かを知りたいと思った。

私たちの住んでいる鹿児島県は、過去に土砂災害が多発しており、全国でも土砂災害の多い地域の一つである。なぜなら、鹿児島県はシラス台地でおおわれているからだ。その中でも鹿児島県民のほとんどが知っている86水害。その水害で竜ヶ水という地域が土砂災害によって大きい被害を受けた。私の親戚の人の体験だが、電車で乗車中、竜ヶ水を通過している途中で、電車の前方と後方に土石流が流れ落ちて来たそうだった。それを聞いただけで全身がゾクッとした。あともう一歩進んでいたら、命はなかったかもしれない。そんな中、そこにいた人たちは互いに助け合いながら危機的状況を乗り越えたという。もし、私がこんな目にあっていたら、手も足も動かないかもしれないし、頭が混乱してしまうかもしれない。しかし、被害にあった人たちは冷静に指示に従って動いたそうだった。だが、この土砂くずれで亡くなってしまった人は四人で、行方不明者はまだ四十九人いるそうだった。

このような災害があった教訓としてどのような対策が行われているのか、鹿児島県が行っている土砂災害防止対策を調べることにした。86水害で大き

な被害を受けた竜ヶ水地区では、あの日の災害以来しゃ面の補強や、雨の量が二百ミリを超えると通行止めになるなどの対策をしている。そして、鹿児島県本部によると、「土石流やがけ崩れの発生するおそれがある区域を調査し、土砂災害警備区域や、土砂災害特別警戒区域を指定している。」とあった。その他にも土石流や流木などを受け止め、被害を少なくする砂防えん堤や、しゃ面の保護などの施設を整備している。

こうして鹿児島県は私たちの身を守るためにいろいろな工夫をして土砂災害に備えてくれていることが分かった。でも、鹿児島県だけが防止対策をしているも防げる確率は低い。私たちも自分自身で対策をしないと、土砂災害で命を落とすことがあるかもしれない。そこで、私たちにできることを考えてみた。一つ目は、準備しておくことだ。土砂災害はいつ起こるかわからない。だからその時に備えて食べ物や飲み物などリュックに入れておくことが大切だ。私の家には防災リュックがあり、長期保存ができる食べ物や飲み物、居場所を知らせるホイッスル、空気を入れたらふくらむしき布団などが入っている。今の時代、お店に防災グッズがたくさん売っているのだから、みなさんも目をおけてみては良いのではないだろうか。二つ目は、早めに避難することだ。私たちが警備情報を知ることができればスマホやテレビだ。スマホでは緊張感を持たせるために怖く、嫌な音を出して土砂災害警備情報知らせる。テレビでは、音と共に字幕が流れる。しかし、警備情報

でてから避難するのは遅いこともある。だから、警戒レベル4になった時点で、安全な場所を確保することが大切だ。でも、無理に避難場所へ行く必要はない。家の二階以上に行くことも避難だ。三つ目は、土砂災害危険箇所を知っておくことだ。鹿児島県はどこに行っても必ず山がある。だからどの山が危険箇所なのか、事前に知っておくことが大切だと考える。

今回、この作文を通して今まで知らなかったことを知識として取り入れることができたし、実際に土砂災害を経験した親戚の人の話も聞くことができて、改めて災害がどんなに怖いことなのかを知り、考えることができた。土砂災害を防ぐ方法はたくさんある。さきほど取り上げた三つの私たちにできることを実践し、自分自身の身を守ろうとすることが大切だと思う。鹿児島県と県民が協力するからこそ防げることがたくさんあるのではないだろうか。

「地しんがおきたら」

令和六年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」 作文小学生の部 最優秀賞（県知事賞）
鹿児島県 鹿児島市立花野小学校 六年 熊迫 乃愛（くまざこ のあ）

「地しんです。地しんです。」
歯医者さんの待合室にいた時のことです。急に母のスマホからアラームが鳴り、私はびっくりしました。その直後、建物がゆっくりと横にゆれ始め、周りに置いてある物もゆれ始めました。ゆれている時間は長く感じ、こわいと同時に少し気持ち悪くなりました。

家に帰ってテレビをつけると、地しんのニュースばかりでした。宮崎でしんどろ弱、鹿児島市で5弱でした。私は、こんなに大きい地しんを経験したのは初めてでした。今年の一月一日は、石川県のと地しん、八年前は熊本地しん、そして私が生まれる一年前は、東日本大しん災と、大きな地しんは起こっています。

そこで、もし地しんにあったらどう対処すればいいのか、やったらいけないことは何か調べてみました。

自分の家の中で地しんが起きた時は、丈夫なテーブルの下にかくれる、家具や物が落ちてこない空間に移動する、など学校で習ったことが書いてありました。

もしスーパリーなどで地しんにあった場合、窓や商品などからはなれ、買い物かごなどで頭を守る、エレベーターに乗っていたら、すべての階のボタンを押して、停止した階で降りる、と書いてありました。

次に、地しんが起きた時にやってはいけないことは何か調べてみました。海や川などの状態を見に行ったりしない、よく確認せずに、部屋の中を歩いて

はいけない、と書いてありました。地しん後は、割れた窓ガラスや照明など、けがの原因になるものが散乱している可能性があるからです。そして、エレベーターに乗って閉じ込められている時は、声ではなく「音」を出して体力を温存するといいと書かれてありました。

そして、地しんの備えで大切なことも調べてみました。一つ目は、危険な場所を確かめておくこと。二つ目は、逃げ方をおぼえたりすること。三つ目は、ひなん場所を決めておくこと、と書かれてありました。

地しんが起きた時は無理に体力を使わず、まずはつくえの下にかくれて身を守り、地しんがおさまるまで待機して、近くの公園の中央に集まったりするなどして、自分の命を守る行動が大切だと思いました。

八月二十九日、鹿児島に台風十号がきました。前日は、買い物に行って、ペットボトルの水やお茶、かん電池などを買いしました。家に帰ると、母はたくさん力セットコンロ、ガスボンベ、かい中電灯などを出して、一カ所にまとめていました。父は、窓のシャッターを閉めて、家の周りに置いてある物を片付けて、チェックをしていました。

「お風呂のお湯は捨てないでね。」と母に言われました。夜になるとものすごい風の音がして、シャッターがガタガタゆれていました。台風は、地しんとは違い、天気予報をみながら準備ができます。それでも、風や雨の音が強くなると不安な気持ち広がってきました。

自然災害はいつ、どこで起こるかわかりません。学校で毎年やっているひなん訓練は、とても大切なことだとあらためて思いました。ひなん訓練があった時は、よく話を聞き、いざというときにあわてないようにしたいと思います。また、ひなんできても、その後の生活もあります。もしかしたら土砂が崩れてくるかもしれません。ひなんして生活することも考えられます。家にあるもので、家族みんなが安心して過ごせるのか心配になってきました。次は、災害に備えた防災グッズや危険な場所についても調べてみようと思います。そして、少しでも安心して暮らせるようにしたいです。